

地震や豪雨から“みんなで” 命が助かるためには

辻堂地区防災協議会



“自助”だけでなく，“共助”（助け合って）で逃げることを考えましょう

1人では避難の難しい高齢の方や障がいのある方（避難行動要支援者）が近くに住んでおいでの場合は、できるだけ声をかけあって安否を確認したり，助けを呼んだり，一緒に逃げたりしていただければ，と思います。

もちろん，“自助が第一”ですから，無理は禁物です。

令和3（2021）年に災害対策基本法が改正され，避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成について市町村に努力義務が課されました。このため，全国で策定が進められています。

辻堂地区でも，各自治会・町内会の担当者と民生委員・児童委員等が協力し合って避難行動要支援者の個別避難計画の作成を進めています。

避難計画の作成には近くにお住まいの方が“支援者”として協力くださる方が必要です。もし，“支援者になってほしい”というお願いがありましたら，是非ご協力くださるようお願い致します。

また，緊急時の避難に不安がある方は，是非お住いの地区の自治会長・町内会長，担当の民生委員・児童委員や市民センター等にご相談ください。

避難行動要支援者の名簿：自治会・町内会や民生委員・児童委員などに配布されています

[illegible]

避難行動要支援者の個別避難計画の様式：要支援者及び支援者，自治会長・町内会長，危機管理課等支援に必要な方に共有されます。

[illegible]

支援してくだ
さる方が 2 名
必要です

なぜ“共助”が必要なのでしょうか？

・1995 年神戸地震では、倒壊家屋から助け出された約 3.5 万人のうち近隣住民に助けられた人は 2.7 万人（約 8 割）でした。

・2014 年長野県北部の地震では、倒壊家屋が 42 棟で、26 名が建物の下敷きになりましたが、自主防災組織が連携し、全員が救助されました。これは、平常時から要配慮者の把握に努め「災害時住民支え合いマップ」を作成し、有事の際誰が安否確認すべきか決めていたことと、日頃からの交流や行事があったことによります。

・2018 年西日本豪雨では岡山県倉敷市真備町で洪水により死者 51 人を出しましたが、そのうち 42 人が避難行動要支援者でした。

・2020年熊本県を中心とする豪雨では、全国で86名の死者を出しましたが、そのうち65歳以上の高齢者が79%でした。